

# 「安全で美味しい米」を徹底

## 観光地 川越「アピ、ネット販売も好調

### 5ツ星マイスター (株)金子商店 (埼玉県川越市)

「五ツ星お米マイスター」を取得したことは店にとって、また、自分自身にとっても非常にプラスになった。改めて米を意識する良い機会だった」と話す、(株)金子商店(埼玉県川越市宮下町一ノ十二ノ七)の金子金次代表。

徹底など新たな顧客も増やし成果があらわれている。同店は東武東上線川越市駅から車で十分程の道路沿いにあり、歩道が広いことと同店の敷地が広いことから車や自転車で立ち寄りやすい。店前に五台分の駐車スペースがあり、さらに敷地は約数十畝の奥行きがあり、低温倉庫、精米工場、灯油

「五ツ星お米マイスター」を取得したことは店にとって、また、自分自身にとっても非常にプラスになった。改めて米を意識する良い機会だった」と話す、(株)金子商店(埼玉県川越市宮下町一ノ十二ノ七)の金子金次代表。

給油所などがある。川越度は高い。店舗は鉄骨の柱以外を蔵造りの町並みを残し、ガラス残りにし、開放感のある空間を演出している。同店は東武東上線川越市駅から車で十分程の道路沿いにあり、歩道が広いことと同店の敷地が広いこと



川越のシンボル「時の鐘」をデザインした紙袋



金子金次代表(右)と専務の真人さん



アイテム別に5kg紙袋が整然と並ぶ



敷地の広い店舗兼事務所

る。店内では茶色の紙袋がきれいに積まれ、商品へのこだわりや自信が感じられる。

同じデザインで用意している。また、このデザインは商標登録されている。金子代表が五ツ星マイスターへ挑戦したことや

となっている。真人さんは、「十年近く勤め、年取もそれなりとなったデパートを辞めて家業を継ぐまでに約一年かかった。しかし、自分が継がなければ家業がいずれ衰退してしまうことには抵抗があった」と話す。

「問題の洗い出しの年」を進路を見出すこととなった。厳しい百貨店業界の中で企業経営を叩き込まれた真人さんは、まず会社の弱点を認識し、さらには将来のあるべき会社像を明確にした。

「스토ア・アイデンティティーの確立」として店のトレードマークとなる商標や米袋デザインの登録、ホームページでのネット販売の開始、パソコンでの顧客管理の徹底、情報の開示などがある。

「小売の存在意義として残されたものは何かを考えると、これからは苦勞なしでは稼げない」という考えのもと、精米工程では多品種・少量用の玄米タンクへ変更し、小ロット対応の精米機を導入、色彩選別機を増設して品質の向上を図り、

仕入れは卸や生産者を通して、秋田、宮城、新潟などの東北を中心に六県から、商品として十五アイテムを揃えている。販売比率は家庭用が約七割、うち六割が来店客となっている。昨年四月にホームページを開設、インターネットでの販売も開始、関西圏からのオーダーが多い。

また、米穀店の在り方を明確にし、経営に対する考えが分かる店作りを行う同店の今後が期待される。